

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 7 日現在

機関番号：11301
研究種目：若手研究(A)
研究期間：2017～2020
課題番号：17H04779
研究課題名（和文）権威主義体制下の政治制度設計と市民の正統性認識：多国間統計分析とサーベイ実験

研究課題名（英文）Institutional design and political legitimacy in autocracy: Cross-national analysis and survey experiments

研究代表者
東島 雅昌 (Higashijima, Masaaki)
東北大学・情報科学研究科・准教授

研究者番号：10756349
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,000,000円

研究成果の概要（和文）：独裁制の政治制度の研究を進め、成果を発表・公刊した。第一に、非民主制の選挙について単著本として英語でまとめ、ミシガン大出版局と出版契約を結んだ。関連する研究は、Government and Opposition誌、『アジア経済』などに採択された。第二に、権威主義の政党に関する多国間データを構築した。Varieties of Democracyと共同でデータ収集を行ない、V-Partyデータとして2020年10月に公刊された。第三に、独裁政府の決定が市民の体制への正統性認識に及ぼす影響をもち、カザフスタンでサーベイ実験を設計した。2021年3月にサーベイ実験が完了し暫定分析結果を報告した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

民主制下の政治制度がどのように作動するのかについては多くのことが明らかになってきたが、権威主義下における選挙や議会、政党といった政治制度がどのように構築され、いかなる政治的・経済的帰結をもつのかは未だ謎が多い。本研究では、独裁制の政治制度の起源と帰結について様々な分析手法やデータを構築・分析することをつうじて、日本の政策決定や国際政治に大きな影響を及ぼす独裁政治のメカニズムを探求するものである。

研究成果の概要（英文）：This project explored the origins and consequences of autocratic institutions. First, I finished writing a monograph on autocratic elections and made a book contract with the University of Michigan Press in August 2020. Related research was also accepted by Government and Opposition and Japanese Journal of Political Science. Second, I constructed a cross-national dataset on authoritarian political parties while collaborating with the Varieties of Democracy Project. The dataset was published as the V-Party data in October 2020. Finally, I designed a survey experiment in Kazakhstan to investigate how political leadership affects citizens' perceptions toward the extant regime. The survey was completed in March 2021 and presented preliminary results in a workshop.

研究分野：比較政治学・政治経済学・中央アジア政治

キーワード：多国間統計分析 サーベイ実験 権威主義体制 政治体制変動 カザフスタン 中央アジア 政治制度
選挙

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

冷戦後の「自由民主主義の勝利」のあとでも、世界の40%以上の国で権威主義支配がつづいている。開発途上世界のいたるところで、権威主義体制が維持される事実を目の当たりにし、政治学者たちは権威主義体制の比較分析に再び取り組むようになった。

先行研究は、権威主義下の政治制度がいかに独裁政権の維持に資しているか論じた。選挙・議会・政党などの制度へ競争原理を導入したり、一部権力を移譲し政治的不確実性を高めると、エリートや市民の反抗を抑止し体制存続に正の影響を与えるとされた。例えば、競争選挙は与野党の支持勢力分布を知らせ、選挙勝利は指導者の正統性を上昇させ、有能な政治家を特定するメカニズムを提供する。政党や議会で集団意思決定を制度化し統治エリートの利益を反映すると、クーデタを恐れる独裁者とパージを懸念する統治エリートの疑心暗鬼を解消する。また、議会・政党組織が多面的で多様な利益の接点になると、一般市民でも制度をつうじパトロネジの恩恵に与りやすい。

しかし、政治制度への不確実性の導入が反体制行動を抑制し体制維持にプラスに働く、という見解には3つの問題がある。第1に、不確実性を導入できるほど体制基盤が磐石な独裁者のみが導入を決定するためそのような関係が見えるに過ぎない、内生性問題がある。政治制度の帰結の前にいかに制度が導入されるか、その起源に注意を払う必要がある。第2に、先行研究は選挙や議会に競争性・多元性があるかや、支配政党があるかに注意を払い、政治的不確実性に影響する多様な制度設計を顧みない。第3に、競争選挙での圧倒的勝利・議会/与党のパトロネジ分配と安定的統治の関係に、市民の指導者への正統性認識の重要性が仮定されるが、ミクロ・レベルの実証分析はなされていない。

2. 研究の目的

政治制度に競争原理を導入し一部権力を移譲するなどして政治的不確実性を導入すると、独裁者は統治の効率性を上げられる。他方、独占権力放棄は体制瓦解のリスクをもつ。例えば、選挙において独裁者は圧倒的勝利を得るために、選挙不正や選挙制度改変などの手段で選挙結果を操作できるが、選挙操作への過度の依存は選挙結果の信憑性を失わせるため、結果的に先行研究の指摘する情報効果を切り崩す。つまり、独裁者は選挙勝利を得る「確実性」と選挙結果の「信頼性」のあいだでトレード・オフに直面する。政党や議会についても、これらの政治制度において集団意思決定を制度化し統治エリートの多様な利益を反映すると、クーデタを恐れる独裁者とパージを懸念する統治エリートの疑心暗鬼を解消するが、独裁者の権力基盤をきり崩す。また、議会・政党が様々な利益の接点になると、エリートだけでなく一般市民でもパトロネジの恩恵に与りやすいが、市民の支持動員に失敗すると体制崩壊のリスクを冒す。不確実性に影響する(1)選挙の起源と政治経済的帰結、(2)政党組織のあり方、(3)体制の意思決定過程のあり方、の4つに焦点を当て、データ構築と仮説検証を進めた。

3. 研究の方法

(1) の選挙の起源と政治経済的帰結に関しては、選挙制度や財政赤字、独裁者の得票率などに関する研究代表者独自の多国間データセットの統計分析とカザフスタンとキルギスでのフィールドワークに基づく質的事例研究を組み合わせ仮説検証をおこなった。(2)の政党組織のあり方

については、専門家調査に基づくコーディング作業をつうじて多国間データセットを新たに構築した。(3)の体制の意思決定過程のあり方については、カザフスタンでサーベイ実験を設計・実施した。

4. 研究成果

1. 選挙の起源と政治経済的帰結

独裁者は選挙勝利を得る「確実性」と選挙結果の「信頼性」のあいだでトレード・オフに直面する。この「選挙のジレンマ」の制約下、独裁者はどの程度市民の「自発的支持」を得られるのか見極めつつ、選挙を設計する必要がある。経済資源を分配し人々の支持を勝ち取ることでできる独裁者は、選挙不正や選挙制度改変による操作を手控えて選挙の情報効果を最大化し、選挙を体制維持の制度的道具として用いる。逆に経済分配と選挙操作のバランスをとりそこなった独裁者は、選挙実施をきっかけとする抗議運動や指導者交代に直面しやすくなる。これらの主張を検証するために、単著本では権威主義体制の選挙に関する多国間データを用いた統計分析と、同じような歴史的・政治制度的・社会的背景を共有するにも拘らず、選挙によって体制が堅固化したカザフスタンと選挙がきっかけとなって体制が崩壊したキルギスの比較事例研究をおこなっている。

以上の内容を持つ単著本の第1稿を2019年3月に完成させ、同年3月11日にミシガン大学のWeiser Center for Emerging Democraciesにて、この分野の第一線の研究者であるAlberto Simpser (ITAM), Erica Frantz (Michigan State University), Allen Hicken (University of Michigan), Dan Slater (University of Michigan), Michael Wahman (Michigan State University), Carl Henrik Knutsen (University of Oslo)などをはじめとした研究者を招聘してブックワークショップを開催した。ワークショップで得たコメントをもとに原稿を改訂させ、2020年1月にプロジェクトに興味を持っているOxford University PressおよびUniversity of Michigan PressのWeiser Series of Democratization & Authoritarianismに投稿した。匿名査読者による査読を経て、2020年7月にUniversity of Michigan Pressより出版契約のオファーを得たため、Oxford University Pressからの査読を辞退し、同年8月17日にUniversity of Michigan Pressと出版契約を結んだ。また同単著の内容を早稲田大学(2019.05)、アジア経済研究所(2019.05)、神戸大学(2019.10)、Nazarbayev University(2019.10)、Southern Methodist University(2019.11)で研究成果を発表した。

2. 政党組織のあり方

与党は(i) エリート間の集合意思決定の制度化と(ii) 党員の支持を動員する組織が体制維持に貢献するイエーテボリ大学のVarieties of Democracyプロジェクト(Staffan Lindberg教授とAnna Luerhmann助教授が主導)と共同で、2つの機能に着目した多国間データを専門家調査で構築した。2020年1月に専門家調査を実施し、2020年6月までにデータ収集と整備が完了し、同年10月にV-Demのホームページより一般公開された。このデータを用いて次のような仮説を現在検証している: 独裁者が一元管理する資源をもつとき、市民の支持を高めて統治エリートを牽制するため党員組織を強化する。他方、資源が分散すると権力分有のため集合意思決定を採用する。また、党員組織に依存する独裁者は支持確保のために浪費的な財政政策を取り、集合意思決定を制度化した体制は景気対策として財政政策を活用する。また、このV-Partyデータセッ

トを用いて、独裁制の政党組織と統治戦略や民主化との関係を探る国際共同研究プロジェクトや、クライアントリズムの起源と帰結に関する国際比較研究も開始した。

3. 体制の意思決定過程のあり方

権威主義体制内の意思決定の仕組みの違いは、体制への市民の正統性認識にいかなる効果を持つのか、カザフスタンでのサーベイ実験を進めた。カザフスタンでは、2019年3月に現職大統領が突如辞任し、同年6月の前倒し大統領選挙で新大統領が選出された。しかしながら、前大統領は依然として後見的権力を有していると目されており、従ってどのように権力が体制内で分有されているのか未確定な部分も多く、したがってサーベイ実験上でランダムに意思決定のあり方に関する情報を与え、それが体制の正統性にどのように影響を与えるか、分析することが可能になる。大統領が採決する写真・記述、大統領と前大統領が共同で採決する写真・記述、与党幹部も含めた合同会議で意思決定をおこなう写真・記述をランダムに示し、正統性認識に処置群と統制群で有意な差が見られるか分析する。また同様の問いにアプローチするべく、リスト実験やランダム化回答法を用いた質問を含めており、権威主義体制において政府や指導者に関する意見を聞く際に障害となる「社会的望ましきバイアス」を軽減する実験デザインを採用している。2019年10月にカザフスタンにて現地調査を行い、現地調査会社を決定し折衝を行ったのち、東北大学での研究倫理審査を経て、サーベイの質問票をこの6月に作成したが、COVID-19によるパンデミックの影響でカザフスタンにて調査を実施できなかった。しかしながら、2021年3月にサーベイ実験本調査が終了し、同月に北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの研究会にて暫定的分析結果を報告した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 東島雅昌	4. 巻 46
2. 論文標題 共著論文という知的営為について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本比較政治学会ニューズレター	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Higashijima, Masaaki and Yu Jin Woo	4. 巻 34
2. 論文標題 Political Regimes and Refugee Entries: Motivations behind Refugees and Host Governments	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 V-Dem User ' s Working Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Chang, Eric C. C. and Masaaki Higashijima	4. 巻 未定
2. 論文標題 The Choice of Electoral Systems in Electoral Autocracies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Government and Oppoiton	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 東島雅昌	4. 巻 未定
2. 論文標題 多国間統計分析と国内事例研究による混合手法：分析アプローチとしての発展と方法論的限界への処方箋	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Higashijima, Masaaki	4. 巻 22
2. 論文標題 Blatant Electoral Fraud and the Value of a Vote	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/s1468109921000037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bodea, Cristina, Carolina Garriga, and Masaaki Higashijima	4. 巻 81-2
2. 論文標題 Economic Institutions and Autocratic Breakdown: Monetary Constraints and Fiscal Spending in Dominant-Party Regimes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Politics	6. 最初と最後の頁 601-615
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Masaaki Higashijima and Christian Houle	4. 巻 40-4
2. 論文標題 Ethnic Inequality and the Strengths of Ethnic Identities in Sub-Saharan Africa	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Political Behavior	6. 最初と最後の頁 909-932
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Bodea, Cristina and Masaaki Higashijima	4. 巻 51-2
2. 論文標題 Central Bank Independence and Fiscal Policy: Can the Central Bank Restrain Deficit Spending?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 British Journal of Political Science	6. 最初と最後の頁 47-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 粕谷祐子・東島雅昌	4. 巻 19
2. 論文標題 選挙権威主義からの民主化：議院内閣制の脅威？	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 比較政治学会年報	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東島雅昌	4. 巻 58
2. 論文標題 書評: Johan Engvall, the State as Investment Market	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 54-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 東島雅昌
2. 発表標題 カザフスタンにおけるサーベイ実験データの暫定的分析：二頭体制、抗議運動、移民そしてCOVID-19への市民の認識
3. 学会等名 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 客員研究員セミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Political Regimes and Refugee Entries: Motivations behind Refugees and Host Governments
3. 学会等名 Conference-within-Conference on Comparative Authoritarianism at the Annual Meeting of Southern Political Science Association
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Election Timing in Autocracy: When Do Dictators Call Elections?
3. 学会等名 Center for Political Studies at University of Michigan
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Dictator's Dilemma at the Ballot Box: Electoral Manipulation, Economic Maneuvering, and Political Order in Autocracy
3. 学会等名 Tower Center at Southern Methodist University
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Dictator's Dilemma at the Ballot Box: Comparative Case Studies of Kazakhstan and Kyrgyzstan
3. 学会等名 PSIR Research Forum, Nazarbayev University
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東島雅昌
2. 発表標題 英語査読誌での経験共有
3. 学会等名 神戸大学法学部セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東島雅昌
2. 発表標題 The Dictator's Dilemma at the Ballot Box: Electoral Manipulation, Economic Maneuvering, and Political Order in Autocracy
3. 学会等名 神戸大学法学部セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Election Timing in Autocracy: When Do Dictators Call Elections?
3. 学会等名 American Political Science Association
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Dictator's Dilemma at the Ballot Box: Electoral Manipulation, Economic Maneuvering, and Political Order in Autocracy
3. 学会等名 アジア経済研究所ランチタイムセミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Dictator's dilemma at the ballot box
3. 学会等名 Book Workshop in the Weiser Center for Emerging Democracies at the University of Michigan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Choice of Electoral Systems in Dictatorships
3. 学会等名 University of Michigan Comparative Politics Workshops (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Election Timing in Autocracy
3. 学会等名 Michigan State University Comparative Politics Workshops (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Dictator's dilemma at the ballot box
3. 学会等名 World Social Science Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Historical Origins of Long-Lasting Military Dictatorships
3. 学会等名 European Consortium for Social Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 When Does the Honeymoon End? Electoral Cycles of Democratic Satisfaction in Africa
3. 学会等名 Pre-IPSA Workshop of Electoral Integrity Project (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東島雅昌
2. 発表標題 多国籍統計分析と比較事例研究による混合手法
3. 学会等名 日本比較政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Choice of Electoral Systems in Dictatorships
3. 学会等名 Waseda University (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東島雅昌
2. 発表標題 The Choice of Electoral Systems in Dictatorships
3. 学会等名 福岡大学経済学部 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Ethnic Inequality and the Strength of Ethnic Identities in Sub-Saharan Africa
3. 学会等名 Annual Meeting of European Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 東島雅昌
2. 発表標題 The Dictator's Dilemma at the Ballot Box
3. 学会等名 日本比較政治学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Democratization and Human Development
3. 学会等名 IMT Lucca (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Does Time Heal Old Wounds? Electoral Cycles of Democratic Satisfaction and the Quality of Elections in Africa
3. 学会等名 Annual Meeting of American Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 東島雅昌
2. 発表標題 Monetary Constraints, Spending and Autocratic Regime Survival
3. 学会等名 横浜市立大学 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kasuya Yuko and Masaaki Higashijima
2. 発表標題 The Historical Origins of Long-Surviving Military Dictatorships
3. 学会等名 Annual Meeting of Southern Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masaaki Higashijima
2. 発表標題 Electoral Fraud and the Value of a Vote
3. 学会等名 Annual Meeting of Western Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Higashijima, Masaaki	4. 発行年 2022年
2. 出版社 University of Michigan Press (Weiser Center for Emerging Democracies Series)	5. 総ページ数 未定
3. 書名 The Dictator's Dilemma at the Ballot Box: Electoral Manipulation, Economic Maneuvering, and Political Order in Autocracies	

1. 著者名 Cristina Bodea, Carolina Garriga, and Masaaki Higashijima	4. 発行年 2020年
2. 出版社 SUERF Conference Proceedings 2020/1	5. 総ページ数 161-179
3. 書名 Central Bank Independence and the Fate of Authoritarian Regimes. Ernest Gnan and Donato Masciandaro eds., Populism, Economic Policies, and Central Banking.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Luehrmann, Anna, Nils Dupont, Masaaki Higashijima, Yaman Berker Kavasoglu, Kyle L. Marquardt, Michael Bernhard, Holger Doring, Allen Hicken, Melis Laebens, Staffan I. Lindberg, Juraj Medzihorsky, Anja Neundorf, Ora John Reuter, Saskia Ruth-Lovell, Keith R. Weghorst, Nina Wiesehomeier, Joseph Wright, Nazifa Alizada, Paul Bederke, Lisa Gastaldi, Sandra Grahn, Garry Hindle, Nina Ilichenko, Johannes von Romer, Steven Wilson, Daniel Pemstein, and Brigitte Seim. 2020. "Codebook Varieties of Party Identity and Organisation (V-Party) V1". Varieties of Democracy (V-Dem) Project.

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Book Workshop in the Weiser Center for Emerging Democracies at the University of Michigan	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------